



イモカタバミ



ハルジョオン



セイヨウタンポポ



アカカタバミ



オニタビラコ

溝口祭典会報紙

こもれび

雑草は人の意図でなく自然に繁殖する植物です。家の庭で見つけるとすぐに引き抜きますが、蕾を見つけると、もう手を出すことができなくなる…、まさにアンタッチャブルな奴らです。



キュウリグサ



カタバミ



オオイヌフグリ

セミナーのご案内

◆「人形供養会」

5月22日(土) 午前11時半から
受付は5/20~22 午前10~12時(5/22は11時まで)
詳細は別紙案内をご参照ください。

◆「お盆セミナー」

『お盆』そのものの意味合いや、飾り付け方、さらに棚経等、お盆に関連する事柄についてご案内をいたします。
また、実際にお仏壇での飾り付けや精霊棚もご覧いただけます。

第1回：6月13日(日) 午前10半~12時

第2回：6月25日(金) 午前10半~12時

定員：10名

場所：こすもす家族会館

講師：伊藤 久哉(式典部次長・一級葬祭ディレクター)

◆ ご葬儀セミナー「最近の葬儀事情について」

コロナ禍でのお葬式はどうしたらいいのか・・・。
今でも、「志村けんさん」や「岡江久美子さん」のような火葬なの？
コロナで大きく様変わりをした最近の葬儀事情についてお話し
いたします。

7月24日(土) 午前10~11時

定員：10名

場所：こすもす斎場

講師：上原 武史(式典部主任・一級葬祭ディレクター)

● 参加ご希望の方は、お電話にてお申し込みください。

お申込み・お問合せ先 株式会社 溝口祭典 042-642-0921

● お知らせ

小紙「こもれび」は、皆様のご指導をいただきながら、創刊以来隔月で発行してまいりましたが、誠に勝手ながら、来年から年4回の発行に変更いたします。今年8月と11月、来年から1月・4月・7月・10月の発行です。今後とも弊社と小紙をよろしくお願い申し上げます。

こもれび5月号2021年5月15日発行 第151号 <<4000部発行>>
発行/株式会社溝口祭典 発行人/溝口勝巳 〒192-0063 八王子市元横山町2-14-19 TEL042(642)0921

●お知らせ 次号は8月中旬の発行でございます。勝手ながらよろしくお願い申し上げます。

2021(令和3年)5月号 No.151



食品のご寄付をお願いいたします

八王子食堂
ネットワーク

一人ひとりの小さな思いやいが、子どもたちの健やかな成長を支える大きな力になります。みなさまのご協力をお願いいたします。

○ご寄付方法

弊社にご連絡いただければ、弊社が指定の場所に受け取りにまいります。または、弊社が、直接左記にお持ち込みください。

(場所) 一般社団法人

フードバンク八王子

(受付) 平日 9時～17時まで

(住所) 八王子中町2-9

フロンメンビル3F

(フードバンク八王子ワークス)

(電話) 042(649)1769

八王子食堂ネットワークは、子ども食堂や地域食堂、無料塾や居場所づくり、フードバンクなどの活動をする団体のネットワークです。緩やかな地域のつながりが、子どもたちの成長を見守り、支える場となるためにそれぞれの団体が活動をしています。

みなさまのご協力は彼らの貴重な活動を支える大きな力となります。どうぞご支援くださいますようお願い申し上げます。

(品例)

- 缶詰・菓子
- 酒類・乾物
- 麺類・お米
- コーヒー
- カップラーメン
- 醤油など



◎ 賞味期限が

一ヶ月以上あるもの

◎ 包装や外装が破損していないもの

◎ 瓶詰の食品でないもの

◎ 未開封のもの

集められた食品は、「八王子食堂ネットワーク」に所属する各団体によって、市内適所に活用されます。「できることを、できる人が、できることから」を合言葉に活動を支援していただける輪を拡げる活動にも力を入れていきます。皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社溝口祭典 ☎042-642-0921
メール km@mizoguchi-saiten.co.jp



里親 (さとおや)

溝口勝巳

私の目の前で、二才くらい小さな女の子が、母親に抱かれて静かに葬儀に参列している。母親は、自分のあごを軽くその子の頭に寄せ、溢れ出る愛情も包み込むように、やさしく、しっかりと両手で抱えている。

この女の子の対極にいるような子供たちを、里親の坂本さん夫婦は、一九八五年から三十六年に亘り、迎え入れてきました。

『ぶどうの木』— 10人の『わが子』とすごした、里親18年の記録 — (平成十五年初版)は坂本洋子さんが、里親制度について、少しでも多くの方にこういう形の家族がいることを知っていただき、里親のことや里子であることを隠さず堂々と生きていくようにってほしいと願いを込めて著した本です。そこからは生きることの難しさ、坂本さん夫

婦の強い信念と深い愛情が伝わってきます。数々の波乱、衝撃と感動の十八年に私も大きく心が動かされました。

私が所属する東京八王子南口1タリークラブの例会で、この里親ひろば・ほいっぶグループ代表の坂本洋子さんのお話を拝聴いたしました。

現在都内には、親のいない子供や、親がいても親の病気や離婚、虐待などの様々な事情により、親と一緒に暮らすことのできない

子供が約四千人(日本全国では約四万六千人)います。このような子供たちを家庭にわかって公的に育てる仕組みを『社会的養護』と呼んでいます。

社会的養護には、より家庭に近い環境で子供を育てる「家庭的養護」と、児童養護施設などの「施設養護」があり、家庭的養護の代表的なものが養護家庭(里親)制度です。

養護家庭(里親)は、養子縁組を目的とせず、一定期間子供を預かり育て、親の事情により途中

ぶどうの木

10人の『わが子』と
すごした、
里親18年の記録

坂本洋子

幻冬舎文庫

で元の家庭に戻ることもあります。東京都内の里親登録は八二四家庭(平成三〇年)で、子供たちは四六三人、八王子では登録三十二家庭のうち、二十四家庭四十九名の子供たちが、それぞれの家庭で生活をしているということです。

坂本さんによりますと、子供たちは皆、心に傷を持ち、人のぬくもりとか人に自分の身を任せるという経験をしたことがないので、大人に対して不信感を抱き、人間不信に陥っているそうです。また、ご飯が炊けたことを知らせる音やお風呂の湧いたことを知らせる音など、私たちが当たり前に思っている音が子供たちにとってはすべてが恐怖であり、さらに朝起きた時、学校に行くとき、帰ってきた時も挨拶を交わす人が同じ人であること自体が驚きなのだといえます。このような状態からのスタートなので、里親の愛情とご苦労、里子の努力と苦悩は量り知ることができません。



こもれび読んで、
ハワイに行こう!

伊藤 恵里子 (第14回)



ホノルル



カパアウ



ヒロ

カメハメハ大王という名前はよく聞きますが、どんな人物なのでしょう。正式名称は「カメハメハ一世」で、ハワイ諸島を初めて統一し、一八一〇年にハワイ王国を建国、初代国王となりました。一七五八年生まれらしいのですが、当時ハワイには文字がなかったため、正確な誕生の記録が無く、推測の域を出ません。

州最高裁判所前の像です。ハワイに行った人は必ず一度は見てほしいと思います。一八七八年の「キャプテン・クックによるハワイ発見百周年」を記念しイタリアで作られた物ですが、船での輸送中、嵐で船と共に沈没してしまいました。現在の物は急ぎ作りなおされた二代目というわけです。

この大王像、いろいろな資料で見ると、カメハメハ大王とはかなり違う顔をしています。実は像のモデルは大王本人ではなく、製作当時の王であるカラカウアが、宮廷の中から選んだ特に見た目が美しい男性とのこと。違う人物をモデルに作るのとは違うのか・・・というところですが。

さて、船と一緒に沈んでしまった最初の銅像はどうなったかというと、一九一二年に船ごと引き上げられましたが、そのまますぐにハワイに届いたわけ

ではなく、引き上げられた場所に近いう町に売られ、長い月日を経て、生誕の地に近いハワイ島北部カパアウという町の地方裁判所前に建立されました。そしてもう一体は同じくハワイ島ヒロにある州立公園内に一九九七年に置かれました。ハワイ島に行ったら、ホノルルの像と見比べるのもいいでしょう。

「ハワイにはカメハメハ大王像が三つある?」

そして、この記事を書きながら、実はもう一体のカメハメハ大王像がアメリカ本土にあるということを知りました。ハワイがアメリカ領からアメリカ合衆国ハワイ州になった一九五九年に、ワシントンの国会議事堂内に設置されたとのこと。もしも、いつの日かワシントンを訪れる機会があるならば、第四のカメハメハ像を見たいと思います。



ると本当に幸せです

週刊朝日の脚本家・内館牧子さんの連載「暖簾にひじ鉄」(2019.2.8)に内館さんと坂本洋子さんの会話の一部が掲載されています。そこには坂本さんが里親としてされてきたことが次のように凝縮されています。

「私は坂本さんに質問してみました。

「里親になって、どういう時が一番幸せですか?」

「うちに来て、子供の顔が幸せそうになってくるんです。それを見

ると本当に幸せです

子供の顔は環境によってどんな変化をするそう。自分は今、お母さんと一緒に買い物に行ったり、お父さんに宿題を見てもらったりしている。一緒にご飯も食べるし、二人は僕のことを大事に思っている。それがわかってくると、顔に幸せ感が出てくるのだという。それを見ることは、里親としてどんなに嬉しいだろう。

そんな里子の一人が、成人した時、坂本さん夫妻に言ったそう

「これまでしてもらったことへの恩は、坂本さんには返さないよ。自分たちのような子供に返すからね」

坂本さんは私に言った。

「子供には『自分だけの大人』という存在が必要なんですよ」

それが実の親でなくても祖母でも里親でも、自分には「自分だけの大人」がついている。それは、どれほど子供を安心させ、幸せな気持ちにするだろう。子供の顔が変わって当然だ。◇

この『ぶどうの木』の巻末に、石原慎太郎元都知事が、心に深い傷を負った子供たちに心血注いで育てている坂本さん夫婦をはじめとする里親を、「神に代わってくれている人々」と題して称えています。

私は到底里親などできず、まさに他人事のように申し訳ないですが、里親の皆さんに心から敬意を表すると同時に、厳しい境遇を経験されてきた里子の皆さんに陰ながらエールを送りたく思います。

ハートネットTV 対馬にて取材

「ぶどうの木」の子ども達

5/19(木) 午後8:00~8:30
5/26(木) 午後1:05~1:35

「私はまことのぶどうの木。あなたがたはその枝である」。虐待や養育拒否などで親と暮らせない子どもを迎え入れ育てる「ファミリーホーム」(小規模住居型児童養育事業)。東京都内にあるホームで里親を務める坂本洋子さんは、18年前里子たちとの日々を「ぶどうの木」という名の一冊の本に綴りました。かつての里子たちは今、対馬で自分なりの居場所を見つけた者もいれば、社会の激変の中でおしつぶされそうになっている者、そしてホームに残り家族を支えることを決めた者など、みな日々を懸命に生きています。コロナ禍、ぶどうの木の細い枝を通じて、「誰もが誰かとつながっているかもしれない」という希望を描きます。

♡子供と里親の暮らしを知る
Tokyo里親ナビ
<https://tokyo-satooyanavi.com/>

是非
ご覧ください。





あさみ りえ／株式会社レ・ミゼラ 代表取締役、Les Misera Culture School～日本に息づく心配り～運営・講師。音楽・舞台業界、製薬医学業界での勤務経験を経て、2011年3月15日に独立。事務業務の代行を行う事業を営む傍ら、『お箸と風呂敷は心を育ててくれる存在である』という想いの下、“お箸”と“風呂敷”をアイテムとして“日本に息づく心配り”の伝承に努めている。1児の母。

『お箸と風呂敷でぬくもり溢れる平和な世界を』

第4回 ～心を育むお箸使い～

浅海 理恵

◎ 浅海先生が YouTube チャンネルを開設されました。 YouTube チャンネル名『RieAsami』



Les Misera Culture School
関連サイト



<https://linktr.ee/misera>

3. お箸使いから学べる基本所作
お箸や食器は「三手」という手順で扱います。この「三手」は、食事の際だけではなく、あらゆるモノの受け渡し所作に通じています。「三手」が身についていけば、大人になってから、名刺交換や金封包み、櫛の扱いなどで戸惑うことは絶対にありません。食器や食材を丁寧に扱うことで、私たちはその手順だけではなく、心の表現方法をも身につけられているのです。



© Les Misera Inc.

1. お箸を取り上げるのはご挨拶をしてから
本連載第二回のコラムで、「いただきます」のご挨拶をする前にお箸を取り上げることは、神聖なるお食事や数多のご縁との結界をぞんざいに扱い、神

実は私たち日本人のお箸の扱い・所作には必ず意味があります。所作を正しく行うことで、尊敬や感謝の念を抱くこと、そしてそのころをきちんと伝えるべく表現する振舞いの方法を学んでいるのです。今回はこの点について、いくつかの具体例を挙げてご紹介しましょう。

皆さま、こんにちは。
前回のコラムでは、歴史の側面から、日本においてお箸が神聖なる存在であることを紐解きました。では、私たちはそのお箸を用いて日々、どのように自らの心を育み、数多への尊敬や感謝の念を表現する方法を身につけているのでしょうか。

2. 「いただきます」と「ごちそうさま」までした
他国の文化においても、食事ができる環境にあることへの感謝、神への感謝を述べる習慣はありますが、日本のご挨拶の対象は、これに止まらないことをご存知でしょうか。私たちの挨拶の先には、神さまだけではなく、目の前に並べられた数多の命や、その神聖なお食事と向き合えるために介してきた多くの人々とのご縁、その方々の汗や涙、ご尽力、時間の数々が含まれています。



© Les Misera Inc.

4. やつてはいけない箸使い
・「持ち箸」「受け箸」
どちらもお箸とお椀を片手で持ち扱う所作です。躰けられた人となりながらも表現される所作の基本は「両手で扱うこと」です。持ち箸や受け箸をしないことで、私たちは大切なモノ、貴重なモノは「必ず両手で扱う」ことを学んでいます。

・「迷い箸」「移り箸」「空箸」
どれも移り気を表す所作です。私たちは「きちんとお相手と向き合うことの大切さ」をもお箸使いによって学んでいます。
・「直箸」
私たちが食事をするとき用いるお箸は一膳、二膳…と数えますが、取り箸や菜箸はそのように数えないことをご存知でしょうか。後者は一對、二対…や、一揃え、二揃え…と数えるのです。文字にくづき(月)が入っていることから関わりが違うが想像できませんよね。ヒト・コト・モノにはそれ



© Les Misera Inc.

絞めてくれなければ、運んでくれなければ、冷蔵・冷凍設備を作ってくれなければ、陳列してくれなければ、販売してくれなければ、様々な設備や道具、食器を作ってくれなければ、配膳してくれなければ、何よりその命が存在しなければ…私たちの目の前にそのお料理が並ぶことはありません。
私たちは飲食物を口にすることで、自らの血とし、肉とし、日々生き長らえることができますが、私たちの一食は、挙げればキリがない程、多くの人の働きによって成り立っているのです。
私たち日本人の食事の際のご挨拶は、こうした数多の存在に対して、尊敬と感謝の想いを口にす言霊なのです。
一食毎に数多の存在に心通わせ、尊敬や感謝の念をもつてご挨拶をすれば、自ずと自らが決して一人ではないということ、誰かに支えられ、そして支えていることを実感できるはず。他も自分も、大切に思えてくるはず

それぞれ用途や目的、存在理由の違いがあることを教えてくれます。それを認識し、それぞれを尊重しながら扱う(接する)ことの大切さも、私たちはお箸使いから学ぶことができます。
日本において大人がお箸使いを通じて人と向き合える理由がお分かりいただけましたでしょうか。やつてはいけない箸使いをしないように乳幼児に求めても無駄ですよね。でもそれは当然のこと。だって、まだ彼らは尊敬する気持ちや感謝の念を抱くことも、その表現方法も分かりませんもの。数多の存在や自分に心を寄せ、尊敬や感謝の念を抱き、それを表現できてこそ、一人前の大人。だからこそ、ある程度の年齢になると、その基本が詰まっているお箸使いによって、人となりを問われるのです。
お箸使いに纏わる所作一つ一つに込められた原点を、今一度是非見つめ直してみてください。丁寧なお箸使いはその一食を、そしてあなたの心や身体を、より一層豊かにしてくれますよ。